

平頂山事件と 新たな戦前を考える

平頂山事件の悲劇を二度と繰り返さないために
2023年9月23日(土・祝)14時



故・方素栄さん1928年6月2日生。2015年永眠。享年87歳。平頂山事件訴訟原告。

2004. 10. 23

主催:「撫順」から未来を語る実行委員会
会場:NATULUCK馬喰横山 資料代:500円
開場 13:30 開会 14:00 閉会 16:30

集会内容

証言 「平頂山事件と わが母 方素栄」
平頂山事件訴訟原告方素栄さんの長男
曲達さん（初来日！）

解説 「平頂山事件訴訟と日中市民の試み」
泉澤章さん（平頂山事件弁護団）

講演 「平頂山事件の人びと」
—平頂山事件から私たちが考えること
井上久士さん（駿河台大学名誉教授）

メッセージ 平頂山惨案記念館 蓋嵐嵐副館長

物販コーナー有/途中休憩15分/資料代500円
(学生無料)

平頂山事件とは

平頂山事件は、1932年9月16日中国東北部撫順市近郊の平頂山地区において、旧日本軍（独立守備隊第2大隊第2中隊）が「匪賊の通過を知りながら通報しないのは平頂山住民が匪賊に通じているからだ」として、報復のために無抵抗の住民3000名余りを虐殺した事件です。日本政府は「戦闘中に住居が燃えただけ」と住民虐殺を全面的に否定するコメントを、1932年11月30日、国際連盟に発表し今もこの「公式見解」を改めていません。

台湾有事が喧伝され、中国との戦争を視野にいれて南西諸島のミサイル基地化を進め軍事拡大が図られている今だからこそ、平頂山事件の幸存者遺族の訴えに耳を傾けて、日中両国及び東アジアの平和的友好関係について考えたいと思います。

平頂山事件の「幸存者」の日本政府に対する要求

- 1 日本政府は、平頂山事件の事実と責任を認め、幸存者及びその遺族に対して公式に謝罪を行うこと
- 2 謝罪の証しとして、
 - ア 日本政府の費用で、謝罪の碑を建てること
 - イ 日本政府の費用で、平頂山事件被害者の供養のための陵苑を設置・整備すること
- 3 平頂山事件の悲劇を再び繰り返さないために、事実を究明し、教訓を後世に伝えること

来日される曲達さん(左)と故・方素栄さん(右)

平頂山事件から91年が経ち、事件の生存者（幸存者）はすべて亡くなりました。今回、幸存者の方素栄さんの長男が来日して、二度と平頂山事件の悲劇を繰り返してはならないと訴えます。



主催

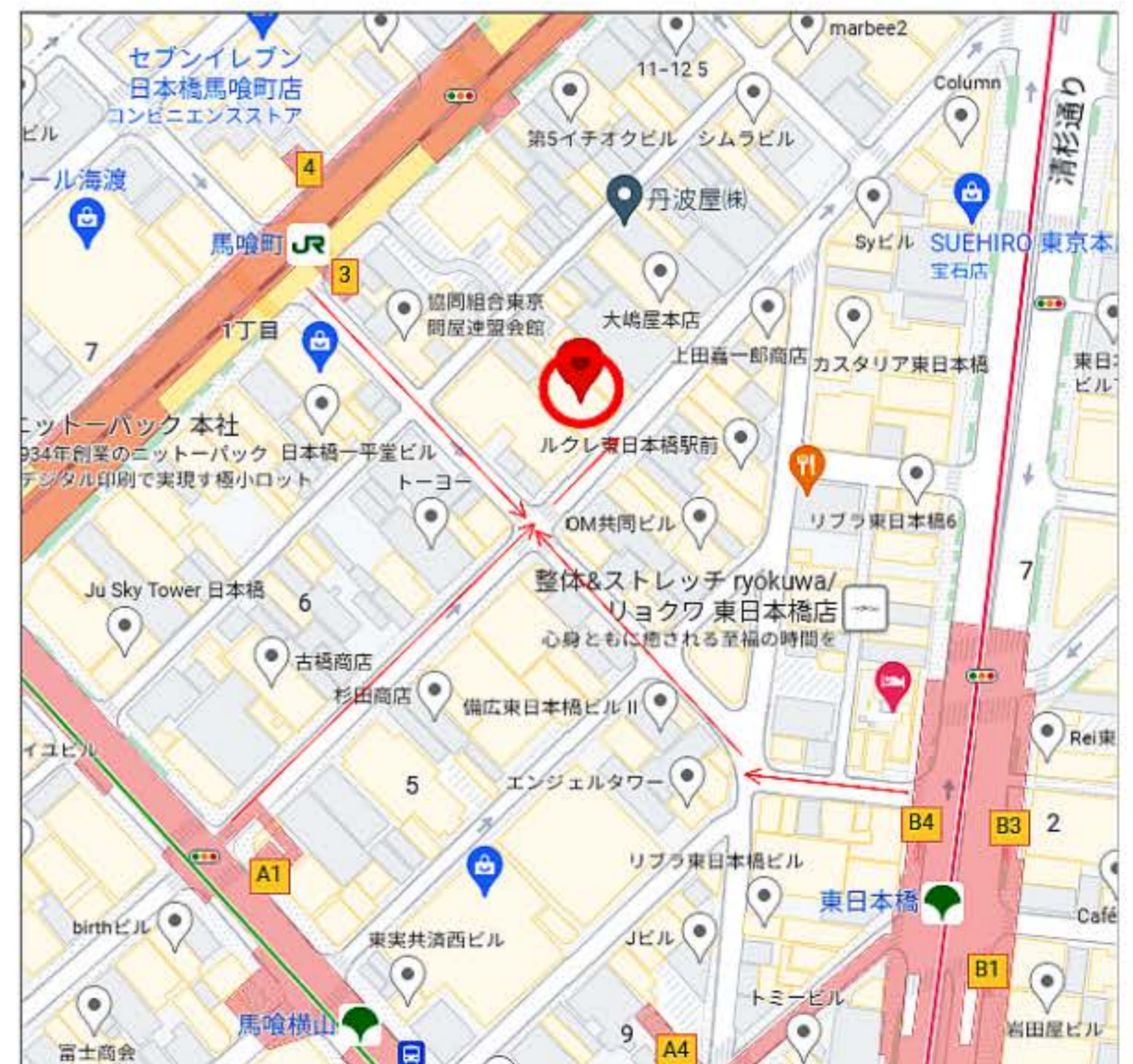
「撫順」から未来を語る実行委員会

連絡先：福田 090-4077-2282

NATULUCK馬喰横山

東京都中央区日本橋横山町7-20森本ビル5階

最寄駅 JR総武本線 馬喰町駅 3番出口 徒歩2分



会場のビル

1階が「FASHIONMESSAGE本店」（3号店、5号店、7号店ではありません）で、そのすぐ横にビル入口があります。